

Partner

パートナー Vol.44 2013. 3 蕨市

蕨市男女共同参画情報紙

パートナーとは…

女性と男性が共に明るい地域
社会を築き上げようという意
味と、市民の皆さんと市が共
に手をたずさえたいこうとい
う願いが込められています。

「今日はパパが独占だあ！」
ゆき すぎまち
Yuki Suguimatiさん



第4回 男女共同参画 結果発表
作品募集事業

イクメン・カジメン フォトコンテスト

今回はイクメン
部門24点、カ
ジメン部門5点
の作品が寄せら
れました。ご応
募ありがとうございました。

「パパと入浴 Time」
こいずみ みき
小泉 美希さん



「SHUN'S キッチン」
あんどう ようこ
安藤 洋子 さん



「はじめてのディズニーランドに大興奮☆」

こつき
小槻 ちづる さん

あの時、**蕨市**の女性は… 震度5弱

出産直後の女性

震災日の昼に帝王切開で出産して個室に戻り、麻酔が効いていて動けない状態でした。子どもを新生児室に戻し、夫と話をしていた時でした。病室の壁に亀裂が入ったので夫がすぐ窓をあけました。点滴を押さえていましたが、個室だったせいか看護師さんたちに、声を掛けられたのが一番最後になってしまい、その間とても不安でした。

幼稚園・小学生の子がいる女性

幼稚園が午前帰りだったので、子どもと一緒に近所の大型スーパーに行っている時でした。売り物の服などがとても揺れていたため、外に避難しました。そのあと、小学生の上の子を迎えに学校に向かったら、余震の続く中、子どもは古い民家が並ぶ住宅街の狭い道を何人かで歩いて帰ってきていたので、途中で何かあったら…と怖かったです。

小学生の子がいる女性（働いている人）

保育士：職場の園児の保護者が迎えに来る夜中まで帰宅できず、自分の子どもがとても心配でした。

パート：子どもに鍵を普段持たせていなかったため、小学校から帰された子どもは居る場所がなく、また学校に戻っていませんでした。

80歳代の独り暮らしの女性

地震の時は家に居ました。ほとんどの家具、棚類は大丈夫でしたが、食器棚の一つだけ、位置的な問題か、中の食器が落ちて壊れました。一人娘がアメリカにいますが、電話連絡があり問題ないことを伝えました。次の大きな余震の時には、民生委員の人が来てくれたので、心強かったです。

視覚障害者の女性

地震発生時は、部屋に独りで座っていました。その後、親戚や社会福祉協議会から電話があり、無事を伝えました。今後、大きな地震がきたら潰されても仕方ないと覚悟しています。地震が来ても、自分からは外に出て行けません。外が混乱している時に歩き回ると、方向がわからなくなって、余計パニックになってしまいます。避難場所も知りません。ご近所の方とは普段あまりコミュニケーションをとっていません。でも、最近よく声を掛けてくれる方がいますね。普段頼りにしているわけではないけど、なんとなく安心します。

あの時、**石巻市**の女性は… 震度6強

市役所の嘱託職員の女性

市役所で仕事をしている時でした。激しい地震の後、「津波が来る」と言われ、急いで山の方に逃げました。津波で道路が寸断されて家に帰れなくなったので、山の上の図書館に避難することになりました。そこには近くの住民が避難してきていました。4日間の避難生活でしたが、特に大変だったのは「寒さ」です。3日目に毛布が配られましたが2人に1枚だったので、寒さですっと眠れませんでした。でも、何よりつらかったのは、家族がバラバラになり安否確認ができなかったことです。携帯電話はつながらず、そのうち充電もなくなりました。災害伝言ダイヤルなんて誰も知りませんでした。家はどうなっているのか、夫は無事か、何も分からず不安でした。避難していた図書館には、乳飲み子を持つ家族や認知症のお年寄りのいる家族もいましたが、そういった家族には自然に配慮する雰囲気がありました。食べ物が届いたら、まず優先。認知症で夜中に騒ぐお年寄り家族には事務所を使ってもらいました。みんなが同じように大変な状況だったので理解し合い、文句を言う人はいませんでした。4日目に水が引き、家に帰ることになりました。それまで情報がほとんど入らなかったため、津波の被害がどの程度か知りませんでしたが、石巻の町が壊滅している様子を見て、みんなで泣きながら帰りました。家に帰ると、幸い夫は無事でした。

4歳の子がいる女性

あの日は、車で15分の友達の家遊びに行っていました。地震の直後、夜勤前で家にいた夫と電話がつながり、無事を確認しました。友達親子と近くの小学校に避難したところを津波に襲われ、2日間孤立してしまいました。その後、山の上にある友達宅に10日間お世話になりましたが、長くは居られず、おばを頼って山の上の中学校に避難しました。そこで約1か月間の避難所生活をしましたが、小さい子どものいる人にとって、長い避難所生活はとても大変でした。子どもはじっとしていられないのに、周りの人に気を遣って静かにさせなければいけません。赤ちゃんの泣き声まで気を遣います。支援物資で洋服や下着が送られてきましたが、子どものサイズがあまり揃っていませんし、体の大きい私に合うサイズもありませんでした。着替えるにしても、更衣室もなく、狭く足元の濡れた和式トイレで着替えるしかありませんでした。その後、仮設住宅に当選し、4月末に移りましたが、自宅にいた父と夫は津波で死亡したことが後日確認されました。

平成23年3月11日（金）午後2時46分・・・東北地方の太平洋側を中心にして最大震度7の激しい揺れと大津波に見舞われた「東日本大震災」。蕨市でも震度5弱の揺れを記録しました。

今回は、「2年前のあの時の状況」を蕨市と宮城県石巻市の女性にお聞きしました。蕨市では大きな被害はなかったものの、家族と連絡が取れなくなったり、仕事先から家に帰れなくなったりするなど不安な時間を過ごした人が多かったようです。一方、大きな被害を受けた宮城県石巻市では、報道されている以上に困難な状況があり、お互いに助け合っていた避難所生活も、長期になると性差による様々な問題がでてきたようです。その中で石巻市の女性の声にもあるように、被災地では防災に女性の視点が欠けていた部分があったとの指摘がされています。私たちがこうした被災者の経験をこれからの防災に活かすには、防災について男女が共に意見を出し合い、それぞれの立場で考え、いざというときに備えることが大切なのではないでしょうか。

安否確認方法を複数決めておく！



家族との連絡方法を「複数」決めておくことが大切です。子どもも含め家族全員で話し合っておきましょう。遠隔地には電話やメールが通じやすいことから遠方の親戚を連絡中継先にするという方法もあります。子育て家庭では、保育園や学校の災害時対応を確認しておくことも必要です。

※現在蕨市では、震度5弱以上の地震発生時には、小学生は保護者に引渡し、中学校でも学校周辺や通学路上の安全が確認できない場合は保護者へ引き渡すこととなりました。

災害伝言ダイヤル「171」
携帯電話各社の災害伝言板サービス

被災地の経験を活かして備える



女性に必要な備えをプラスする



水や食料、防災グッズだけでなく、生理用品など女性特有の必要品も備えておきましょう。下着が替えられないときには下着用シートが活躍するそうです。その他見落としがちなものとして、赤ちゃんのいる人は、哺乳瓶の消毒液や母乳パッド、目隠しにもなるバスタオルなど。

防災組織など地域活動に参画しましょう



防災のことを決めたり話し合う場合には、男性ばかりでなく女性をはじめ高齢者、障害者、外国人など多様な立場の人が参画して、お互いの立場を理解した上で防災対策を考えることが大切です。まずは地域で行われる防災訓練や防災に関する催し物などに参加することから始めてみましょう。地域の人のつながりをつくるのが、防災の参画への第一歩です。





男女共同参画サポート 研究委託事業 報告

蕨市では、市民団体から提案された事業で、市と協働して行うにふさわしい事業を選び、提案した団体に委託することで、男女共同参画のまちづくりを進めています。今年度は3つの団体が事業を実施しました。

ルワンダのマリールイズさんに学ぶ 女性国会議員世界一!

塚越小学校PTA

10月24日(水)、ルワンダ出身で現在は福島にお住いのマリールイズさんに、午前中は塚越小学校の5・6年生、午後は保護者などの大人たちに向けて講演していただきました。マリールイズさんがルワンダの内戦の中、どのようにして子どもたちを連れて逃げ、難民キャンプで生きのび、そして日本にやって来たかについてお聞きしました。マリールイズさんは「教育のおかげで私は助かった。

教育は本当に大切。生きる力になる。」と繰り返し話していただきました。学校で習ったドーナツづくりで難民キャンプを生きのび、留学して習った日本語のおかげで日本に逃げて来られたのです。内戦が終わったルワンダでは政策決定の場に女性を一定の割合入れることを憲法で決め、女性国会議員が56%と世界一の国になったのです。



講演をするマリールイズさん

夫婦で休日を楽しむ ～ヨガとうどんづくり～

塚越フレッシュママ応援団「ぷちとまと」

11月17日(土)、0歳のお子さんをお持ちの夫婦10組に参加いただきました。ママグループはヨガで育児に疲れた心身をリフレッシュし、パパグループはうどんづくりに挑戦。うどんをこねる作業は夫婦で協力して行い、まさに共同参画を体験できました。メッセージカードの交換も行い、お互いの思いやりの気持ちも確認できました。



真剣にうどんをつくるパパと 気持ちよくヨガをするママ

塚越地区男女共同参画フォーラム

塚越コミュニティ委員会

2月16日(土)、東公民館で「DVを次の世代につなげないために、私たちができること」というテーマで男女共同参画フォーラムを開催しました。NPO法人湘南DVサポートセンターの瀧田信之さんを講師にお迎えし、DVは夫婦だけの問題だけでなく、家庭内の暴力を目撃して育った子にも影響があること、若い男女間でも起こっていること(デートDV)などについてお話をお聞きしました。講演後に参加者同士でDVなどの暴力をなくすにはどうしたらいいか話し合い、学びを深めました。



瀧田先生による講演の様子

編集後記

近頃、既存の社会のしくみでは解決できない問題を何とかしたいと地域に呼びかけて仲間作りをする人たちが増えてきました。この仲間も「地域」と呼べるのではないのでしょうか。防災を考える上で、この新しい「地域」にも期待したいです。(S)

男女共同参画モデル地区 in 南町

2月16日(土)に南公民館で男女共同参画講演会『夫婦ふたりでワーク・ライフ・バランス～38年の教職人生を振り返って～』を開催しました。南小学校・前校長の佐藤秀子さんに、夫婦ともに協力し合うことの大切さをお話いただきました。講演会に引き続き「イクメン・カジメンフォトコンテスト表彰式」を行い、1階ロビーには、イクメン・カジメンフォトコンテストの今年度の応募作品を展示しました。また、2月から南公民館報に「男女共同参画コラム」の掲載を始めています。南町では、来年度も男女共同参画のまちづくりに向けた取り組みを行っていきます。



笑顔の絶えない佐藤先生の講演

パートナー第4号
二〇二三年三月一日発行
企画編集 パートナー編集委員会(蕨市民生活部市民活動推進室)内
編集委員 大石圭子 押山節生 蔵迫祥子 竹口素弘
新妻朋子 杉山節子 落合民雄
〒335-8501 蕨市中央5-14-15
電話 048-433-7745
Eメール siminst@city.warabi.saitama.jp